

大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京外国語大学
整理番号	AR02
事 業 名	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献する TUFUS 日露ビジネス人材育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、言語力、ロシア及び日本に関する教養・知識、経済についての知見、交渉力・調整力を併せ持ち、両国間の経済・文化交流を現場で支える高度な「日露ビジネス人材」を育成すること、これにより、貿易・金融、観光・交通、農林水産業、製造業・IT、医療通訳、報道、文化交流等の多様な分野で日露経済活動を活性化させることを目指し実施されたものである。 全学体制の下、ロシア語能力を備えた教職員が配置され、事業が安定的に実施されたことが窺える。モスクワに設置された在外オフィスをはじめとして、ロシアの連携大学との連絡・情報共有体制も整備され、当該事業を円滑に運営することができたと言える。また、学生の事業参加の動機づけを促す「RJJI (Studies on Russia, Japan, and Internship)プログラム」の導入、「TUFUS 日露ビジネスネットワーク」との協働及び支援体制等を意欲的に進めた点も評価できる。 コロナ禍においても、ICT ツールの特性を活かしたオンライン国際教育を積極的に実施した点、並びに挑戦的な交流学生数の計画値をほぼ達成し、サマースクールやインターンシップ等では、日本の他大学、ロシアの協定校以外の大学へも参加者を広げたことにより、本事業の波及効果が見られた点も高く評価できる。更に、ロシアから受け入れた学生の単位の実質化に関して、単位取得の証明書発行だけでなく、帰国後、本国の大学での単位認定まで確認していた点は優れている。 一方で、語学力に関しては、コロナ禍の影響により試験が中止されるといった問題があったとはいえ、ロシア語、英語ともに基準値に達した学生数が目標値の半分程度であり、当初の計画で謳われたトライリンガルの涵養が達成されたとは言い難い。インターンシップに関しては、ツアー型、一日研修等、企業見学・視察の域を脱しておらず、就業体験やジョブ・シャドウイングが中心となるような国際的に見てインターンシップと呼べるものを実施していくことが望まれる。また、ダブル・ディグリー・プログラムに関する取組は、協定書の調印までに留まり、実施には至らなかった点が残念であるが、今後の取り組みに期待したい。 最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	